

【三神合祭殿再建200年記念事業】【新潟・庄内 DC キャンペーン記念事業】

～新たな時代へ受け継がれる出羽三山の歴史～

150年ぶり国宝五重塔の扉が開かれる…

羽黒山最古の建造物国宝五重塔。

平安中期の武将平将門創建と伝え

色彩を施さない素木の姿が樹齢 300 年

以上の杉木立の中にひっそりと佇む。

五重塔が建立する山内で最も低い谷は、

いにしえより宇宙のエネルギーが漲る

吉祥の地とされている。

皇紀 2679 年 西紀 2019 年

4/27(土)～11/30(土)

【公開時間】午前8時30分～午後4時30分

【拝観料】 大人 500 円 / 共通券 700 円

国宝 羽黒山五重塔 内部特別拝観



覚諄別当が山麓修験者に託した
羽黒三所大権現の

秘仏公開

羽黒山山頂儀式殿

皇紀 2679 年 西紀 2019 年

【公開時間】

午前 8 時 30 分～午後 4 時 30 分

【拝観料】

大人 300 円 / 共通券 700 円



出羽三山神社

TEL.0235-62-2356

URL:<http://www.dewasanzan.jp/>

Fax.0235-62-2352 〒997-0292 山形県鶴岡市羽黒町手向字手向 7

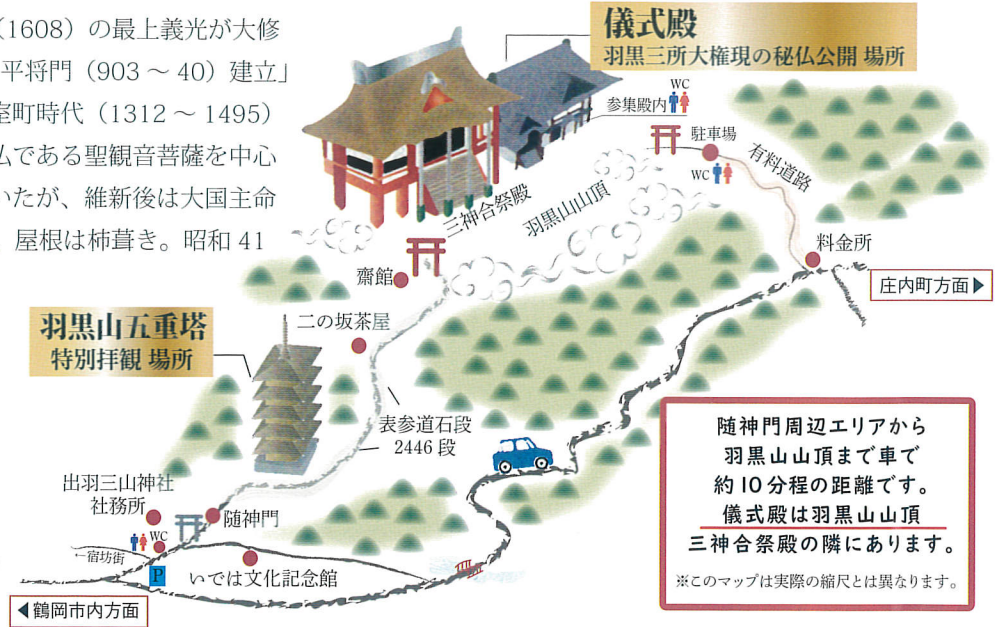
国宝 羽黒山五重塔内部特別拝観

明治初年（1868年）明治新政府は神仏分離令を発令し開山千数百余の歴史を持つ出羽三山は神社となった。また、昭和期に国宝となった五重塔の内部は「秘中の秘」とされ人々の目に触れることは考えられなかった。

国宝五重塔の建立に関して、慶長13年（1608）の最上義光が大修復した時の棟札に、「承平年中（931～38）平将門（903～40）建立」とあるが、現在の塔は建築様式から鎌倉・室町時代（1312～1495）と見られる。明治時代までは羽黒山の本地仏である聖観音菩薩を中心に妙見菩薩と軍荼利明王を両脇に安置していたが、維新後は大国主命を祀る。高さ29.4m、三間五層の素木造り、屋根は柿葺き。昭和41年（1966）国宝に指定された。

【五重塔拝観内容】

- 初重（一階）
 - 平安時代の三跡 小野道風筆と伝える四身額
 - 内部構造の映像
 - 五重塔覆鉢台座拓本 他
- 二重（二階）
 - 心柱を中心とする内部構造



覚諄別当が山麓修験者に託した 羽黒三所大権現の 秘仏公開

場所：羽黒山山頂儀式殿

仏像に託された覚諄と又兵衛の想い
時代を超えて脈々と息づく信仰の絆

文化8年（1811）閏2月11日、ご本社から出火で周辺の行者堂、開山堂、弁財天堂、稲荷堂まで焼き尽くしてしまいました。火災より2日後、山麓手向村の衆徒天羽又兵衛は御神秘の早期再建にと田地を売って作った300両を献納したことから覚諄が別当として入山した同10年に再建を果たすことができました。

覚諄別当は造営の功労者として天羽又兵衛を別当所出仕賄役次席に取り立てた。

さて、天羽又兵衛家には羽黒三所大権現である大日如来・阿弥陀如来・観音菩薩の3軀をはじめ、不動明王・弁財天の2軀の仏像が安置されている。当家には覚諄別当がご本社再建を果たした折、再び本社が火災に遭ったとき、これを御本尊として祀るように託されたと伝えられている。

平成30年に引き続き、羽黒山三神合祭殿再建200年事業として、この仏像5軀を羽黒山頂儀式殿にて公開することになりました。

じゃっこういわいぜん

寂光祝膳

蜂子皇子が道すがら食したであろう
在来野菜を盛り込んだ御膳

羽黒山の開祖蜂子皇子は鶴岡市由良の八乙女浦に上陸し、在地の民に食べ物をお恵んで頂き、三本足の八咫鳥に導かれ、羽黒山にたどり着いた。修行の後、天皇に本尊を祀る社の建立を願い出て許され、鳥に因んで羽黒山寂光寺と宣下された。



特製クリアファイル付



みやごもれ
宮護禮
おのがはぐろの
我跡羽久呂之
やまがらす
陽満迦羅壽
かしらもはねも
頭母羽根毛
しろくなるまで
城来成萬天

羽黒山大鳥居 90年の時を経て 新たに生まれ変わった



出羽三山の表玄関神路坂

出羽三山の表玄関にあたる神路坂に昭和4年大鳥居が奉納されました。90年の時を経て老朽化したため平成30年11月建て替えられました。新たな大鳥居は特殊鋼鉄製で高さ23.8m 笠木の幅が31.6mと従来より大きくなりました。鳥居には従来の陸軍大将一戸兵衛翁が揮毫した額が掲げられています。

羽黒山三神合祭殿再建200年を記念し開祖の道中を支えた在来野菜を取り入れた祝膳をご用意致しました。

【期間】2019年4/27(土)～12/30(月)

【料金】3,000円(税別)(8品にお土産付き)※3日前まで要予約

【お問合せ・予約】羽黒山齋館 TEL.0235-62-2357